

単元の課題

地球儀や地図を活用して、日本の地域構成を読み取ろう。

知識・技能の習得

<第1時>

世界の中での日本の位置

地球上の日本の位置を、緯度・経度の絶対的な位置関係と、周辺の大陸や国との相対的な位置関係から説明する。

<第2時>

時差でとらえる日本の位置

時差の生じるしくみを理解し、地図を用いて日本と主な国・都市間の時差を読み取る。

<第3時>

日本の範囲

地図を用いて日本の領域や排他的経済水域を読み取り、その重要性について理解する。

知識・技能の活用

特設

<第4時、第5時>

追究～日本の領土問題～

北方領土をはじめとする日本の領土問題について知り、領土を守ることの大切さについて考える。

知識・技能の習得

<第6時>

都道府県と地域区分

地図と統計資料を用いて、7 地方区分や47 都道府県の都道府県庁所在地の名称と位置、面積や人口などの特色を理解する。

知識・技能の活用

<第7時>

さまざまな地域区分と略地図

日本の略地図を適切に描き、その略地図を利用してさまざまな地域区分の自然・文化・歴史的背景について考察する。

単元の到達目標

地球儀や地図を活用し、我が国の国土の位置、世界各地との時差、領域の特色と変化、地域区分などから、日本の地域構成を理解し、考えたことを表現している。

第2章 日本の姿 (6時間)

第1節 世界の中での日本の位置 (1/6)

本時の目標：地球上の日本の位置を、緯度・経度の絶対的な位置関係と、周囲の大陸や国との相対的な位置関係から説明する。

プロセス1：課題設定

キーワードを確認する



発問 国を一つ選び、その国と日本の位置関係を、緯度・経度を用いて表すと、どのようになるでしょう。

👉キーワード (予習事項)
緯度, 経度, 北緯, 南緯, 東経, 西経, 赤道, 極東など

👉ワンポイントアドバイス
◇情報を「気付きメモ」に記入
→生徒は既習事項以外のキーワードやキーセンテンスをあげ、既習事項については教師が押さえる。

プロセス2：仮説立案と検証

各自のもつ情報から、仮説を立てる (仮説立案)

👉読取

👉資料：地球儀, 地図帳



各自の仮説について、資料で確認する (検証)

👉解釈

👉ワンポイントアドバイス
◇地球儀・地図帳から情報収集
◇アシストカードを活用
◇自分の意見を必ず文章化

プロセス3：交流と再構築

グループで話し合い、全体の場で発表する (交流)

👉説明

👉ワンポイントアドバイス
◇他者が納得できる説明 (根拠が大事)
→国名を当て合うのも可
◇他者の説明をしっかりとメモ (参考に)



自分の意見を見直す (知識の再構築)

👉解釈

プロセス4：一般化と発展

今日の学習についてまとめる (一般化), 振り返る



新たに生まれた疑問から学習課題をつくる (発展)
例) 日本の位置を、よりわかりやすく示す方法はないだろうか。

《一般化》
緯度と経度で位置を表すと一つの表現になるが、大陸や国との関係で位置を表すと、どこから見るかによって多様な表現になる。

👉ワンポイントアドバイス
◇「学習課題のつくりかた」を活用
→追究の時間につくる学習課題につなげる。

生徒がめざす姿 (評価規準)

＜関心・意欲・態度＞
○地球儀や地図を用いて、日本の位置をわかりやすく表現しようとしている。

＜思考・判断・表現＞
○自分の意見を、根拠を示しながら具体的に説明している。

＜資料活用の技能＞
○地図帳を用いて、日本の絶対的な位置と相対的な位置を読み取っている。

＜知識・理解＞
○必要な知識を身に付け、説明や論述のときなどに正しく使っている。

第2章 日本の姿 (6時間)

第2節 時差でとらえる日本の位置 (2/6)

本時の目標：時差の生じるしくみを理解し、地図を用いて日本と主な国・都市間の時差を読み取ることができるようにする。

プロセス1：課題設定

キーワードを確認する



発問 日本との時差が5時間になる国を二つ挙げて、気付いた点についてまとめよう。

☞キーワード (予習事項)
経度 15 度で 1 時間の差, 子午線, 標準時, 時差, 東経 135 度, 本初子午線, 日付変更線など

☞ワンポイントアドバイス
◇情報を「気付きメモ」に記入
→生徒は既習事項以外のキーワードやキーセンテンスをあげ、既習事項については教師が押さえる。

プロセス2：仮説立案と検証

各自のもつ情報から、仮説を立てる (仮説立案)

読取



各自の仮説について、資料で確認する (検証)

解釈

☞資料：教科書 p. 122～123
地図帳 p. 1～3

☞ワンポイントアドバイス
◇教科書や地図帳から情報収集
◇アシストカードを活用
◇自分の意見を必ず文章化

プロセス3：交流と再構築

グループで話し合い、全体の場で発表する (交流)

説明



自分の意見を見直す (知識の再構築)

解釈

☞ワンポイントアドバイス
◇他者が納得できる説明 (根拠が大事)
→同じ時差の国を当て合うのも可
◇他者の説明をしっかりメモ (参考に)

プロセス4：一般化と発展

今日の学習についてまとめる (一般化), 振り返る



新たに生まれた疑問から学習課題をつくる (発展)

例) 一つの国の中で時差がある場合、そこで暮らす人々にはどのような影響があるのだろうか。

<一般化 (まとめ)>
本初子午線を基準に、世界各地では標準時が定められており、その差を時差とよぶ。時差によって、地球上での東西の位置関係をとらえることができる。

☞ワンポイントアドバイス
◇「学習課題のつくりかた」を活用
→追究の時間につくる学習課題につなげる。

生徒がめざす姿 (評価規準)

<関心・意欲・態度>
○複数の情報を資料から読み取り、ノートに書いている。

<思考・判断・表現>
○自分の意見を、根拠を示しながら具体的に説明している。

<資料活用の技能>
○地図帳を用いて、日本と外国の主な都市との時差を読み取っている。

<知識・理解>
○時差についての知識を身に付け、説明や論述のときなどに使っている。

第2章 日本の姿 (6時間)

第3節 日本の範囲 (3/6)

本時の目標: 地図を用いて日本の領域や排他的経済水域を読み取り, その重要性について理解できるようにする。

プロセス1: 課題設定

キーワードを確認する



発問

沖ノ鳥島を保護するために, 国が護岸工事を行ったのはなぜでしょう。

☞キーワード (予習)

領域, 領土, 領海, 領空, 北端 (択捉島), 東端 (南鳥島), 西端 (与那国島), 南端 (沖ノ鳥島), 北方領土, 排他的経済水域など

👉ワンポイントアドバイス

◇情報を「気付きメモ」に記入
→生徒は未習事項のキーワードやキーセンテンスをあげ, 既習事項については教師が押さえる。

プロセス2: 仮説立案と検証

各自のもつ情報から, 仮説を立てる (仮説立案)

読取

☞資料: 教科書 p. 124~125
地図帳 p. 163



解釈

各自の仮説について, 資料で確認する (検証)

👉ワンポイントアドバイス

◇教科書や地図帳から情報収集
◇アシストカードを活用
◇自分の意見を必ず文章化

プロセス3: 交流と再構築

グループで話し合い, 全体の場で発表する (交流)

説明

👉ワンポイントアドバイス

◇他者が納得できる説明 (根拠が大事)
◇他者の説明をしっかりとメモ (参考に)



解釈

自分の意見を見直す (知識の再構築)

プロセス4: 一般化と発展

今日の学習についてまとめる (一般化), 振り返る



新たに生まれた疑問から学習課題をつくる (発展)

例) 排他的経済水域の他国との境界線は, どのようにして決まるのだろう。

《一般化》

日本にとって領土を守ることは, 排他的経済水域にある水産資源や地下資源を守ることでもあり, 重要な意味をもつ。

👉ワンポイントアドバイス

◇「学習課題のつくりかた」を活用
→追究の時間につくる学習課題につなげる。

生徒がめざす姿 (評価規準)

<関心・意欲・態度>

○複数の情報を資料から読み取り, ノートに書いている。

<思考・判断・表現>

○沖ノ鳥島の護岸工事が行われた理由を考え, 根拠を示しながら具体的に説明している。

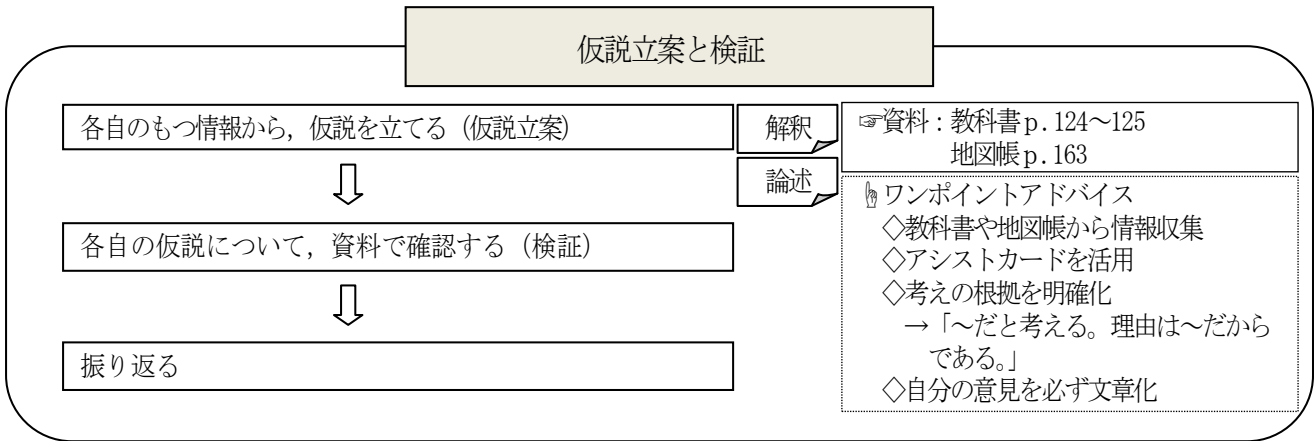
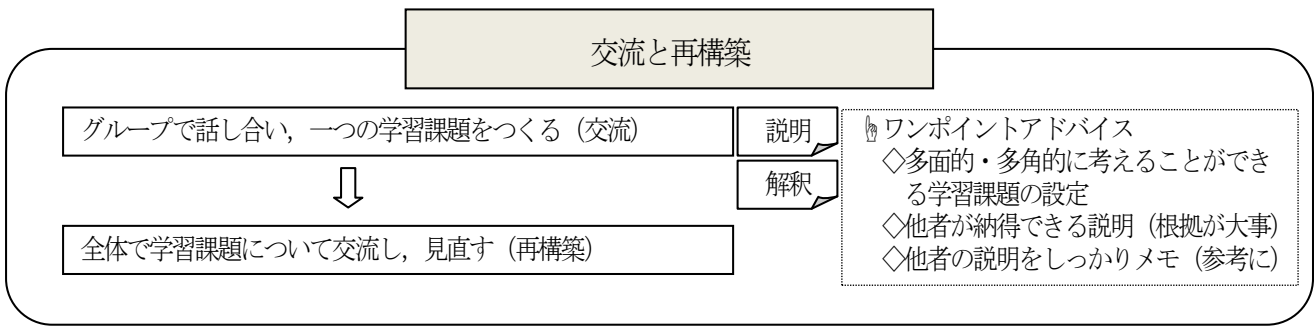
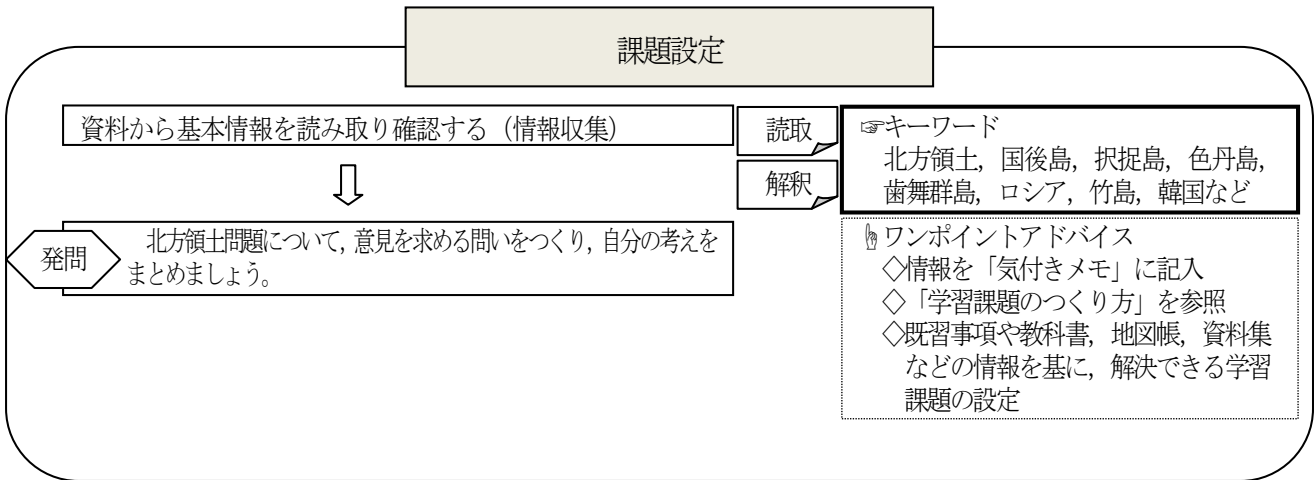
<資料活用の技能>

○地図やグラフなど適切な資料を選び, 必要な情報を読み取っている。

<知識・理解>

○日本の領域や排他的経済水域のもつ意味をとらえ, その重要性に気付いている。

本時の目標：北方領土をはじめとする日本の領土問題について知り，領土を守ることの大切さについて考える。



生徒がめざす姿 (評価規準)

<関心・意欲・態度> ○既習事項や資料を基に, 価値判断や意思決定ができる学習課題をつくっている。	<思考・判断・表現> ○日本の領土問題について考え, 具体的な根拠を示しながら論述している。	<資料活用の技能> ○地図やグラフなど適切な資料を選び, 領土問題に関わる必要な情報を読み取っている。	<知識・理解> ○北方領土や竹島などの領土問題に関わる知識を身に付け, 説明や論述のときなどに使っている。
--	---	--	--

第2章 日本の姿（6時間）

第4節 都道府県と地域区分（5／6）

本時の目標：地図と統計資料を用いて、7 地方区分や47 都道府県の都道府県庁所在地の名称と位置、面積や人口などの特色を理解できるようにする。

プロセス1：課題設定

キーワードを確認する



発問

日本地図で47 都道府県の位置と県庁所在地を確認し、7 地方に分けられた理由を考え説明しましょう。

📖キーワード（予習）

47 都道府県、7 地方区分（北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州）など

👉ワンポイントアドバイス

◇情報を「気付きメモ」に記入
→生徒は未習事項のキーワードやキーセンテンスをあげ、既習事項については教師が押さえる。

プロセス2：仮説立案と検証

各自のもつ情報から、仮説を立てる（仮説立案）

読取

📖資料：教科書p.126～127
地図帳p.164



各自の仮説について、資料で確認する（検証）

解釈

👉ワンポイントアドバイス

◇教科書や地図帳から情報収集
◇アシストカードを活用
◇自分の意見を必ず文章化

プロセス3：交流と再構築

グループで話し合い、全体場で発表する（交流）

説明

👉ワンポイントアドバイス

◇他者が納得できる説明（根拠が大事）
◇他者の説明をしっかりメモ（参考に）



自分の意見を見直す（知識の再構築）

解釈

プロセス4：一般化と発展

今日の学習についてまとめる（一般化）、振り返る



新たに生まれた疑問から学習課題をつくる（発展）

例）ほかにはどのような地域区分の仕方があるのだろう。

《一般化》

現在の7 地方は、昔の「国」という歴史的要素のほかに、文化・経済・交通などの様々な要素により分けられている。

👉ワンポイントアドバイス

◇「学習課題のつくりかた」を活用
→追究の時間につくる学習課題につなげる。

生徒がめざす姿（評価規準）

<関心・意欲・態度>

○複数の情報を資料から読み取り、ノートに書いている。

<思考・判断・表現>

○7 地方区分が設定された理由を考え、根拠を示しながら具体的に説明している。

<資料活用の技能>

○地図帳や統計資料などを利用し、7 地方区分の設定理由につながる必要な情報を読み取っている。

<知識・理解>

○47 都道府県や7 地方区分についての知識を身に付け、説明や論述のときなどに使っている。

第2章 日本の姿 (6時間)

第5節 さまざまな地域区分と略地図 (6/6)

本時の目標：日本の略地図を適切に描き，その略地図を利用してさまざまな地域区分の自然・文化・歴史的背景について考察できるようにする。

プロセス1：課題設定

キーワードを確認する



発問

日本の略地図を描き，自分なりの地域区分を書き込んで，理由を説明しましょう。

📖キーワード (予習)

電力会社の地域区分，昔の地域区分 (国，道)，東日本・西日本，北陸・中央高地・東海など

👉ワンポイントアドバイス

◇情報を「気付きメモ」に記入
→生徒は未習事項のキーワードやキーセンテンスをあげ，既習事項については教師が押さえる。

プロセス2：仮説立案と検証

各自のもつ情報から，仮説を立てる (仮説立案)

読取

📖資料：教科書 p. 128～129

地図帳 p. 127～143, p. 164



各自の仮説について，資料で確認する (検証)

解釈

👉ワンポイントアドバイス

◇教科書や地図帳から情報収集
◇アシストカードを活用
◇自分の意見を必ず文章化

プロセス3：交流と再構築

グループで話し合い，全体の場で発表する (交流)

説明

👉ワンポイントアドバイス

◇他者が納得できる説明 (根拠が大事)
◇他者の説明をしっかりとメモ (参考に)



自分の意見を見直す (知識の再構築)

解釈

プロセス4：一般化と発展

今日の学習についてまとめる (一般化)，振り返る



新たに生まれた疑問から学習課題をつくる (発展)

例) 日本のそれぞれ地域には，どのような特色があるのだろう。

《一般化》

区分の目的や自然・文化・歴史などの基準によって，様々な形で地域区分を考えることができる。

👉ワンポイントアドバイス

◇「学習課題のつくりかた」を活用
→追究の時間につくる学習課題につなげる。

生徒がめざす姿 (評価規準)

<関心・意欲・態度>

○複数の情報を資料から読み取り，ノートに書いている。

<思考・判断・表現>

○自分が設定した地域区分の理由を，根拠を示しながら具体的に説明している。

<資料活用の技能>

○主な経度や緯度との位置関係に留意しながら，日本の略地図を描いている。

<知識・理解>

○区分の目的や基準によって，様々な地域区分があることを理解している。

2年 社会科学習指導案

1. 本時…世界の中での日本の位置（第1時）

2. 本時の目標…地球上の日本の位置を，緯度・経度の絶対的な位置関係と，周辺の大陸や国との相対的な位置関係から説明できるようにする。

3. 本時の評価

観点	学習活動における 具体的な評価規準 (B)	(A) 十分満足できる	(C) の生徒への手立て
関心 意欲 態度	地球儀や地図を用いて，日本の位置をわかりやすく表現しようとしている。	よりわかりやすい，他の表現方法を用いて表現しようとしている。	国名を隠して説明し，お互いに国名を当て合うようなクイズ形式を用いて，意欲を高める。
技能	地図帳を用いて，日本の絶対的な位置と相対的な位置を読み取っている。	地球儀を用いて，立体的な位置関係についても正確に読み取っている。	学び合い学習をとおして，他の生徒のよい部分を取り入れるようにうながす。

4. 本時の展開

過程 (分)	学習内容	学習活動 (◇)，予想される生徒の反応 (・)	指導上の留意点 (○)・支援 (*)・評価 (【 】)
プロセス1 (10分)	1. キーワードの確認	◇家庭学習で挙げたキーワードを，全体で確認する。	○事前学習ができているか，机間指導で確認する。 ○キーワードを板書し，特に重要なものについては，意味や内容も確認する。
発問「国を一つ選び，その国と日本の位置関係を，緯度・経度を用いて表すと，どのようになるでしょう。」			
プロセス2 (10分)	2. 世界における日本の位置	◇国を一つ決め，その国と日本の位置関係を緯度・経度を用いてどのように説明するか考えて文章にする。 <div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px;">読取</div> <div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px;">解釈</div> ・中国は，緯度でいうと北緯20度から50度の間にあり，日本とはほぼ同緯度の関係にある。日本は中国のほぼ真東に位置する。 ・オーストラリアは東経120度から160度の間にあり，日本とはほぼ同経度の関係にある。日本はオーストラリアのほぼ真北に位置する。	○意欲を高めるために，お互いの説明を聞いて国名を当て合うクイズ形式にしてもよい。 *「～は，緯度でいうと～で，日本と～の関係にある」などの話型を示すことによって，キーワードを用いて文章化できるようにする。
プロセス3 (20分)	3. 説明内容の検討	◇各自が考えた説明をグループで交流し，よりわかりやすい説明の仕方を考える。 <div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px;">説明</div> <div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px;">解釈</div> ◇グループの中で最もわかりやすい説明のできた生徒が代表して，全体の場で発表する。	○地球儀や地図を用いて説明できるようにする。 ○「学び合い学習の約束」で，学び合い学習のねらい，進め方，話すときと聞くときのルールを確認しながら進める。 ○自分の説明と違うところを見つけて書き留めるように指示する。わからない言葉は，説明の後で質問するようにする。

			<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>地球儀や地図を用いて、日本の位置をわかりやすく表現しようとしている。(ノート、交流の様子)</p>
プロセス4 (10分)	4. 学習のまとめと課題づくり	<p>◇今日の学習内容を一般化する。</p> <p>◇振り返りを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパの国から見ると、日本は世界の東の端にあるということがわかった。 ・緯度と経度で位置を示せば、どの国から見ても同じ表現で表せることがわかった。 <p>◇今日の授業で新たに生まれた疑問を基に、価値判断や意思決定を必要とする学習課題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の位置を、よりわかりやすく示す方法はないだろうか。 	<p>＜一般化(まとめ)＞</p> <p>経度と緯度で位置を表すと一つの表現になるが、大陸や国との関係で位置を表すと、どこから見るかによって多様な表現になる。</p> <p>【技能】</p> <p>地図帳を用いて、日本の絶対的な位置と相対的な位置を読み取っている。(ノート)</p> <p>*「わかったこと」と「まだわからないこと」を箇条書きであげること、文章化できるようにする。</p> <p>○「どうしたらよいか」「どの方法がよいか」「自分だったらどうする」という言葉を意識して、疑問形の文章で考えるようにする。</p>

11. 板書計画

<p>第2章 日本の姿</p> <p>第1節 世界の中での日本の位置</p> <p>◎本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球上の日本の位置を、経度・緯度の絶対的な位置関係と、周囲の大陸や国との相対的な位置関係から説明する。 <p>◎めざす姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球儀や地図を用いて、日本の位置をわかりやすく表現しようとしている。(関心・意欲・態度) ・地図帳を用いて、日本の絶対的な位置と相対的な位置を読み取っている。 	<p>学習課題</p> <p>国を一つ選び、その国と日本の位置関係を、経度・緯度を用いて表すと、どのようになるでしょう。</p> <p>(各班の意見)</p> <p>1班：～</p> <p>2班：～</p>
<p>気付きメモ (キーワード)</p>	<p>【一般化】</p> <p>経度と緯度で位置を表すと一つの表現になるが、大陸や国との関係で位置を表すと、どこから見るかによって多様な表現になる。</p>
	<p>【学習のまとめ】</p>
	<p>《新たな疑問と課題》</p> <p>疑問：なぜ～だろう？</p> <p>学習課題 どうすれば～だろう？</p>

2年 社会科学習指導案

1. 本時…時差でとらえる日本の位置（第2時）
2. 本時の目標…時差の生じるしくみを理解し、地図を用いて日本と主な国・都市間の時差を読み取ることができるようにする。
3. 本時の評価

観点	学習活動における具体的な評価規準 (B)	(A) 十分満足できる	(C) の生徒への手だて
資料活用の技能	地図帳を用いて、日本と外国の主な都市との時差を読み取っている。	交通や通信など、実生活に関わる場面で時差を読み取っている。	地図の上を示してある時計のマークと時差の知識を結び付けることによって、読み取ることができるようにする。
知識理解	時差についての知識を身に付け、説明や論述のときなどに使っている。	時差についての知識を、実生活に関わる場面で正しく使っている。	前時に学習した経度の知識を用いることで、15度で1時間の時差が生じることを理解できるようにする。

4. 本時の展開

過程 (分)	学習内容	学習活動 (◇), 予想される生徒の反応 (・)	指導上の留意点 (○)・支援 (*)・評価 (【 】)
プロセス1 (10分)	1. キーワードの確認	◇家庭学習で挙げたキーワードを、全体で確認する。	○事前学習ができていないか、机間指導で確認する。 ○キーワードを板書し、特に重要なものについては、意味や内容も確認する。
発問「日本との時差が5時間になる国を二つ挙げて、気付いた点についてまとめましょう。」			
プロセス2 (10分)	2. 日本と外国の都市との時差	◇日本との時差が5時間になる国を二つ挙げ、気付いた点をまとめる。 読取 解釈 ・時差は経度15度につき1時間なので、5時間で75度の差になる。 ・時差が同じになる都市は、地図上では縦に一直線上（同じ経線上）に並んでいる。	○時差が5時間になる国を見つけ、地図に印をつけるようにする。 ○日付変更線を越える例も、あげることができるとよい。 *地図の上にある時計のマークと時差の知識を結び付けることによって、時差を読み取ることができるようにする。
プロセス3 (20分)	3. 説明内容の検討	◇各自が考えをグループで交流し、気付いた点についてまとめる。 説明 解釈 ◇各グループでまとめた気付いた点について、全体場で発表する。	○地図を用いて説明するようにする。 ○自分の説明と違うところを見つけて書き留めるように指示する。わからない言葉は、説明の後で質問するようにする。 【資料活用の技能】 地図帳を用いて、日本と外国の主な都市との時差を読み取っている。(ノート、交流の様子)

プロセス4 (10分)	4. 学習のまとめと課題づくり	<p>◇今日の学習内容を一般化する。</p> <p>◇振り返りを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時差を用いることで、東西の位置関係を表せることがわかった。 ・〇〇さんの説明が～について具体的に述べていて、よくわかった。 ・時差が私たちの生活とどのように関わっているのか知りたくなった。 <p>◇今日の授業で新たに生まれた疑問を基に、各自で学習課題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つの国の中で時差がある場合、そこで暮らす人々の生活にはどのような影響があるのだろうか。 	<p style="text-align: center;">＜一般化（まとめ）＞</p> <p>本初子午線を基準に、世界各地では標準時が定められており、その差を時差とよぶ。時差を用いることで、東西の位置関係を表すことができる。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>時差についての知識を身に付け、説明や論述のときなどに使っている。（ノート）</p> <p>* 「わかったこと」と「まだわからないこと」を箇条書きであげることで、文章化できるようにする。</p> <p>○ 「学習課題のつくりかた」を参考にして、学習課題を考えるようにする。</p>
----------------	-----------------	---	---

5. 板書計画

<p>第2章 日本の姿</p> <p>第2節 時差でとらえる日本の位置</p> <p>◎本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時差の生じるしくみを理解し、地図を用いて日本と主な国・都市間の時差を読み取る。 <p>◎めざす姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地図帳を用いて、日本と外国の主な都市との時差を読み取っている。（資料活用の技能） ・時差についての知識を身に付け、説明や論述のときなどに使っている。（知識・理解） 	<p style="text-align: center;">学習課題</p> <p>日本との時差が5時間になる国を二つ挙げて、気付いた点についてまとめよう。</p> <p>（各班の意見）</p> <p>1班：～</p> <p>2班：～</p>
<p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; display: inline-block; padding: 2px;">気付きメモ（キーワード）</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>	<p style="text-align: center;">[一般化]</p> <p>本初子午線を基準に、世界各地では標準時が定められており、その差を時差とよぶ。時差を用いることで、東西の位置関係を表すことができる。</p>
	<p style="text-align: center;">【学習の振り返り】</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>
	<p style="text-align: center;">《新たな疑問と課題》</p> <p>疑問：なぜ～だろう？</p> <p>学習課題 どうすれば～だろう？</p>

2年 社会科学習指導案

1. 本時…日本の範囲（第3時）

2. 本時の目標…地図を用いて日本の領域や排他的経済水域を読み取り、その重要性について理解できるようにする。

3. 本時の評価

観点	学習活動における 具体的な評価規準 (B)	(A) 十分満足できる	(C) の生徒への手だて
思考 判断 表現	沖ノ鳥島の護岸工事が行われた理由を考え、根拠を示しながら具体的に説明している。	失われる排他的経済水域の具体的な面積を示すことで、より具体的に説明している。	「沖ノ鳥島が沈んだらどうなるか」を考えることで、排他的経済水域も減ることに気付くようにする。
知識 理解	日本の領域や排他的経済水域のもつ意味をとらえ、その重要性に気付いている。	日本の領域や排他的経済水域のもつ意味を理解した上で、その知識を説明や論述で正しく使っている。	日本近海の重要な地下資源（メタンハイドレート、レアアースなど）の分布図を示すことで、排他的経済水域のもつ意味に気付くようにする。

4. 本時の展開

過程 (分)	学習内容	学習活動 (◇), 予想される生徒の反応 (・)	指導上の留意点 (○)・支援 (*)・評価 (【 】)
プロセス1 (10分)	1. キーワードの確認	◇家庭学習で挙げたキーワードを、全体で確認する。	○事前学習ができていないか、机間指導で確認する。 ○キーワードを板書し、日本の領土の東西南北の端については必ず確認する。
発問「沖ノ鳥島を保護するために、国が護岸工事を行ったのはなぜでしょう。」			
プロセス2 (10分)	2. 日本の排他的経済水域	◇沖ノ鳥島の護岸工事が行われた理由を考え、キーワードを用いて文章にまとめる。 読取 解釈 ・沖ノ鳥島が沈むと、日本の領土や排他的経済水域が減る。(どのくらい減るのかな?) ・排他的経済水域が減ると、海の資源も減ることになる。 ・日本の排他的経済水域でなくなったら、どこものになるのだろう。	○沖ノ鳥島の写真を示す。 *「沖ノ鳥島が沈んだらどうなるか」を考えることで、排他的経済水域も減ることに気付くようにする。 *日本近海の重要な地下資源（メタンハイドレート、レアアースなど）の分布図を示すことで、排他的経済水域のもつ意味に気付くようにする。
プロセス3 (10分)	3. 説明内容の検討	◇各自が考えをグループで交流し、より適した説明にする。 説明 解釈 ◇各グループでまとめた説明について、全体の場で発表する。	○地図を用いて説明するようにする。 ○自分の説明と違うところを見つけて書き留めるように指示する。わからない言葉は、説明の後で質問するようにする。 【思考・判断・表現】 沖ノ鳥島の護岸工事が行われた理由を考え、根拠を示しながら具体的に説明している。(ノート、交流の様子)

プロセス4 (10分)	4. 学習のまとめと課題づくり	<p>◇今日の学習内容を一般化する。</p> <p>◇振り返りを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の領域がわかった。 ・〇〇さんの説明が具体的で、排他的経済水域の大切さがよくわかった。 ・領土を守ることが、国の利益を守ることにつながっていることがわかった。 <p>◇今日の授業で新たに生まれた疑問を基に、各自で学習課題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排他的経済水域の他国との境界線は、どのようにして決まるのだろう。 	<p style="text-align: center;"><一般化(まとめ)></p> <p style="text-align: center;">日本にとって領土を守ることは、排他的経済水域にある水産資源や地下資源を守ることでもあり、重要な意味をもつ。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>日本の領域や排他的経済水域のもつ意味をとらえ、その重要性に気付いている。(ノート)</p> <p>*「わかったこと」と「まだわからないこと」を箇条書きであげること、文章化できるようにする。</p> <p>○「学習課題のつくりかた」を参考にして、学習課題を考えるようにする。</p>
----------------	-----------------	--	--

5. 板書計画

<p>第2章 日本の姿 第3節 日本の範囲 ◎本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地図を用いて日本の領域や排他的経済水域を読み取り、その重要性について理解する。 <p>◎めざす姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖ノ鳥島の護岸工事が行われた理由を考え、根拠を示しながら具体的に説明している。(思考・判断・表現) ・日本の領域や排他的経済水域のもつ意味をとらえ、その重要性に気付いている。(知識・理解) <p>気付きメモ (キーワード)</p>	<p>学習課題</p> <p>沖ノ鳥島を保護するために、国が護岸工事を行ったのはなぜでしょう。</p> <p>〈各班の意見〉</p> <p>1班：～</p> <p>2班：～</p> <p>[一般化]</p> <p>日本にとって領土を守ることは、排他的経済水域にある水産資源や地下資源を守ることでもあり、重要な意味をもつ。</p> <p>【学習の振り返り】</p> <p>《新たな疑問と課題》</p> <p>疑問：なぜ～だろう？</p> <p>学習課題</p>
--	--

2年 社会科学習指導案

1. 本時…追究～日本の領土問題～（第4時）

2. 本時の目標…北方領土をはじめとする日本の領土問題について知り、領土を守ることの大切さについて考えることができるようにする。

3. 本時の評価

観点	学習活動における 具体的な評価規準 (B)	(A) 十分満足できる	(C) の生徒への手だて
関心 意欲 態度	既習事項や資料を基に、価値判断や意思決定ができる学習課題をつくっている。	価値判断や意思決定をするのに、多面的・多角的に考える必要がある学習課題をつくっている。	北方領土や竹島について、具体的に何が問題になっているのかを資料から読み取ることで、「もしも～ならば」に入る言葉を考えることができるようにする。
思考 判断 表現	日本の領土問題について考え、具体的な根拠を示しながら論述している。	複数の根拠を示しながら、自分の考えを論述している。	教科書や資料のキーワードを再確認することで、論述の根拠として活用できる知識に気付くようにする。

4. 本時の展開

過程 (分)	学習内容	学習活動 (◇), 予想される生徒の反応 (・)	指導上の留意点 (○)・支援 (*)・評価 (【 】)
課題設定 (20分)	1. キーワードと基本情報の確認	◇次の視点で資料からキーワードを探し、北方領土問題の基本情報と共に、全体で確認する。 [視点①] 日本の領土問題とは、どのようなものか。 [視点②] なぜ、そのような問題が起こったのか。	○領土問題に関する資料を配布する。 ○キーワードを板書し、領土問題の基本的な内容について確認する。
	発問「北方領土問題について、意見を求める問いをつくり、自分の考えをまとめましょう。」		
	2. 日本の領土問題	◇北方領土問題に関して価値判断や意思決定の必要な学習課題をつくる。 ・もしもあなたが日本の総理大臣なら、北方領土の返還について、ロシアとどのように交渉するか。 ・「北方領土の返還は必要ない」という意見に対して、あなたはどのように反論するか。	○第1時から第3時でつくった学習課題も参考に ○「学習課題のつくり方」を参考にして考える。 *「もしも～なら、～についてどうするか」「どうすれば～できるか」という学習課題の形を示すことで、～に入る言葉を考えて学習課題をつくることができるようにする。
交流と 再構築 (10分)	3. 学習課題の検討	◇各自の学習課題をグループで交流し、より考えを深めることができるものにする。 ◇各グループでつくった学習課題について、全体の場で発表する。	○より多面的・多角的に考えることができるような学習課題にする。 【関心・意欲・態度】 既習事項や資料を基に、価値判断や意思決定ができる学習課題をつくっている。(ノート、交流の様子)

仮説立案 と検証 (20分)	4. 自分の考えの論述	<p>◇グループでつくった学習課題について、自分の考えを文章で論述する。 解釈 論述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北方領土は我が国固有の領土である。理由は歴史的に見ても～だからであり、返還を強く望む。 ・北方領土を取り戻すことは必要であると考え。理由は～だからである。 <p>◇振り返りを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北方領土の問題は、日本の排他的経済水域に関わる重要な問題であることがわかった。 ・尖閣諸島の問題についても知りたい。 	<p>○「～だと考える。理由は～だからである。」という文型を用いて、自分の考えの根拠となるものを明らかにする。</p> <p>*教科書や資料のキーワードを再確認することで、論述の根拠として活用できる知識に気付くようにする。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>日本の領土問題について考え、具体的な根拠を示しながら論述している。(ノート)</p> <p>*「わかったこと」と「まだわからないこと」を箇条書きであげること、文章化できるようにする。</p>
----------------------	-------------	--	---

5. 板書計画

<p>第2章 日本の姿 第3節 (特設) 追究～日本の領土問題～</p> <p>◎本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北方領土をはじめとする日本の領土問題について知り、領土を守ることの大切さについて考える。 <p>◎めざす姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項や資料を基に、価値判断や意思決定ができる学習課題をつくっている。(関心・意欲・態度) ・日本の領土問題について考え、具体的な根拠を示しながら論述している。(思考・判断・表現) 	<p>学習課題</p> <p>北方領土問題について、意見を求める問いをつくり、自分の考えをまとめよう。</p> <p>(各班の意見)</p> <p>1班:～</p> <p>2班:～</p>
<p>気付きメモ (キーワード)</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>	

2年 社会科学習指導案

1. 本時…都道府県と地域区分（第5時）

2. 本時の目標…地図と統計資料を用いて、7 地方区分や47 都道府県の都道府県庁所在地の名称と位置、面積や人口などの特色を理解できるようにする。

3. 本時の評価

観点	学習活動における 具体的な評価規準 (B)	(A) 十分満足できる	(C) の生徒への手だて
思考 判断 表現	7 地方区分が設定された理由を考え、根拠を示しながら具体的に説明している。	複数の理由を考えて、それぞれの根拠を示しながら具体的に説明している。	歴史、文化、地形、経済、交通などの、いくつかの項目を挙げることで、具体的に考えられるようにする。
知識 理解	47 都道府県や7 地方区分についての知識を身に付け、説明や論述のときなどに使っている。	47 都道府県の位置関係や地理的条件についても大まかにとらえ、正しく使っている。	白地図に書き込むことで、都道府県や7 地方区分の知識を身に付けるようにする。

4. 本時の展開

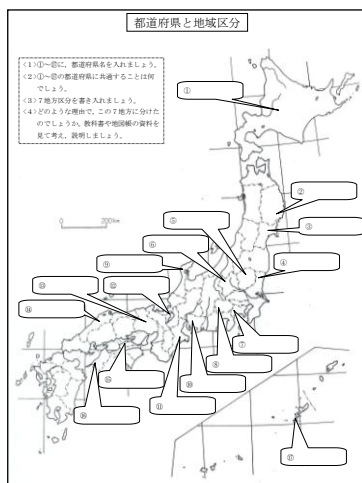
過程 (分)	学習内容	学習活動 (◇), 予想される生徒の反応 (・)	指導上の留意点 (○)・支援 (*)・評価 (【 】)
プロセス1 (10分)	1. キーワードの確認	◇家庭学習で挙げたキーワードを、全体で確認する。	○事前学習ができていないか、机間指導で確認する。 ○キーワードを板書し、特に重要なものについては、意味や内容も確認する。
発問「日本地図で、47 都道府県の位置と県庁所在地を確認し、7 地方に分けられた理由を考え説明しましょう。」			
プロセス2 (10分)	2.7 地方区分	◇47 都道府県の位置と県庁所在地を確認し、白地図に書き込む。 ◇白地図に7 地方区分を書き込み、なぜその七つの地方に分けられたのか理由を考え説明する。 読取 解釈 ・近いところを集めてある。 ・昔の「国」で分けてある。 ・北海道と九州は、海（海峡）で分けてある。 ・大きな川のあるところで分けてある。	○都道府県に区分された日本の白地図を準備する。 *白地図に書き込むことで、都道府県や7 地方区分の知識を身に付けるようにする。 *歴史、文化、地形、経済、交通などの、いくつかの項目を挙げることで、具体的に考えられるようにする。
プロセス3 (20分)	3. 説明内容の検討	◇各自が考えをグループで交流し、より納得のいく説明にする。 説明 解釈 ◇各グループでまとめた説明について、全体の場で発表する。	○根拠にした資料を提示する。 ○自分の説明と違うところを見つけて書き留めるように指示する。わからない言葉は、説明の後で質問するようにする。 【思考・判断・表現】 7 地方区分が設定された理由を考え、根拠を示しながら具体的に説明している。(ノート、交流の様子)

プロセス4 (10分)	4. 学習のまとめと課題づくり	<p>◇今日の学習内容を一般化する。</p> <p>◇振り返りを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地形や歴史など、いろいろな要素で地域区分できることがわかった。 ・〇〇さんの説明が～について具体的に述べていて、よくわかった。 <p>◇今日の授業で新たに生まれた疑問を基に、各自で学習課題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほかにはどのような地域区分の仕方があるのだろうか。 	<p style="text-align: center;">＜一般化（まとめ）＞</p> <p style="text-align: center;">現在の7地方は、昔の「国」という歴史的要素のほかにも、文化・経済・交通などの様々な要素により分けられている。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>47都道府県や7地方区分についての知識を身に付け、説明や論述のときなどに使っている。(ノート)</p> <p>*「わかったこと」と「まだわからないこと」を箇条書きで挙げることで、文章化できるようにする。</p> <p>○「学習課題のつくりかた」を参考にして、学習課題を考えるようにする。</p>
----------------	-----------------	--	--

5. 板書計画

<p>第2章 日本の姿 第4節 都道府県と地域区分</p> <p>◎本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地図と統計資料を用いて、7地方区分や47都道府県の都道府県庁所在地の名称と位置、面積や人口などの特色を理解する。 <p>◎めざす姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7地方区分が設定された理由を考え、根拠を示しながら具体的に説明している。(思考・判断・表現) ・47都道府県や7地方区分についての知識を身に付け、説明や論述のときなどに使っている。(知識・理解) <p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; display: inline-block;">気づきメモ (キーワード)</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%; margin-top: 5px;"></div>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">学習課題</p> <p>日本地図で47都道府県の位置と県庁所在地を確認し、7地方に分けられた理由を考え説明しよう。</p> <p>(各班の意見)</p> <p>1班：～</p> <p>2班：～</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[一般化]</p> <p>現在の7地方は、昔の「国」という歴史的要素のほかにも、文化・経済・交通などの様々な要素により分けられている。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>【学習の振り返り】</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>《新たな疑問と課題》</p> <p>疑問：なぜ～だろう？</p> <p>学習課題 どうすおひま～だろう？</p> </div>
--	---

資料



2年 社会科学習指導案

1. 本時…さまざまな地域区分と略地図（第6時）

2. 本時の目標…日本の略地図を適切に描き、その略地図を利用してさまざまな地域区分の自然・文化・歴史的背景について考察できるようにする。

3. 本時の評価

観点	学習活動における 具体的な評価規準 (B)	(A) 十分満足できる	(C) の生徒への手だて
思考 判断 表現	自分が設定した地域区分の理由を、根拠を示しながら具体的に説明している。	複数の理由を考えて、それぞれの根拠を示しながら具体的に説明している。	歴史、文化、地形、経済、交通などの、いくつかの項目を挙げることで、具体的に考えられるようにする。
資料 活用 の 技能	主な経度や緯度との位置関係に留意しながら、日本の略地図を描いている。	四島の位置関係について正確にとらえ、半島の形を意識して適切に略地図を描いている。	北緯 30 度・35 度・40 度、東経 120 度・135 度・150 度の線を書き込むことで、それを目安として略地図を描くことができるようにする。

4. 本時の展開

過程 (分)	学習内容	学習活動 (◇), 予想される生徒の反応 (・)	指導上の留意点 (○)・支援 (*)・評価 (【 】)
プロセス1 (10分)	1. キーワード・キーセンテンスの確認	◇事前学習で挙げたキーワードを、全体で確認する。	○机間指導で、事前学習ができていないか確認する。 ○キーワードを板書し、特に重要なものについては、意味や内容も確認する。
発問「日本の略地図を描き、自分なりの地域区分を書き込んで、理由を説明しましょう。」			
プロセス2 (10分)	2. 日本の略地図とさまざまな地域区分	◇日本の略地図を描く。 ◇略地図に自分なりの地域区分を書き込み、なぜそのように分けたのか理由を説明する。 <div style="display: flex; justify-content: center; gap: 10px; margin-top: 5px;"> 読取 解釈 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・気候の似ている地域で分けた。 ・面している海の違いで分けた。 ・フォッサマグナで分けた。 ・方言の違いで分けた。 	*北緯 30 度・35 度・40 度、東経 120 度・135 度・150 度の線を書き込むことで、それを目安として略地図を描くことができるようにする。 *地形、気候、食べ物、言語などの、いくつかの項目を挙げることで、具体的に考えられるようにする。 【資料活用の技能】 主な経度や緯度との位置関係に留意しながら、日本の略地図を描いている。(ノート)
プロセス3 (10分)	3. 説明内容の検討	◇各自が考えをグループで交流し、より納得のいく説明にする。 <div style="display: flex; justify-content: center; gap: 10px; margin-top: 5px;"> 説明 解釈 </div> ◇各グループで代表者を決めて、全体の場で発表する。	○根拠にした資料を提示する。 ○説明の根拠を見つけて書き留めるように指示する。わからない言葉は、説明の後で質問するようにする。 【思考・判断・表現】 自分が設定した地域区分の理由を、根拠を示しながら具体的に説明している。(ノート、

			交流の様子)
プロセス4 (10分)	4. 学習のまとめと課題づくり	<p>◇今日の学習内容を一般化する。</p> <p>◇振り返りを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地形や気候、方言など、いろいろな基準で地域区分できることがわかった。 ・〇〇さんの説明が～について具体的に述べていて、よくわかった。 <p>◇今日の授業で新たに生まれた疑問を基に、各自で学習課題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本のそれぞれ地域には、どのような特色があるのだろう。 	<p><一般化(まとめ)> 区分の目的や自然・文化・歴史などの基準によって、様々な形で地域区分を考えることができる。</p> <p>*「わかったこと」と「まだわからないこと」を箇条書きで挙げることで、文章化できるようにする。</p> <p>○「学習課題のつくりかた」を参考にして、学習課題を考えるようにする。</p>

5. 板書計画

第2章 日本の姿
第5節 さまざまな地域区分と略地図

◎本時の目標

- ・日本の略地図を適切に描き、その略地図を利用してさまざまな地域区分の自然・文化・歴史的背景について考察する。

◎めざす姿

- ・自分が設定した地域区分の理由を、根拠を示しながら具体的に説明している。(思考・判断・表現)
- ・主な経度や緯度との位置関係に留意しながら、日本の略地図を描いている。(資料活用)の技能)

学習課題
日本の略地図を描き、自分なりの地域区分を書き込んで、理由を説明しよう。
(各班の意見)
1班：～
2班：～

【一般化】
区分の目的や自然・文化・歴史などの基準によって、様々な形で地域区分を考えることができる。

【学習の振り返り】

《新たな疑問と課題》
疑問：なぜ～だろう？
学習課題 どうすれば～だろう？

気づきメモ (キーワード)

資料

日本の略地図を描こう

